

働いてよし&暮らしてよし むらやまの企業

株式会社鈴木製作所

山形市にある株式会社鈴木製作所の若手社員、馬場遥平さん取材しました！
馬場さんは、山形大学人文学部人間文化学科を卒業後、2020年に入社しました。
現在は、総務部で勤務しています。

(1) 仕事内容編

——鈴木製作所ではどのようなものを作っていますか。

大きく分けて二つあります。まずは、「家庭用ロックミシン」、もう一つは「横型ピロー包装機」です。どちらも初めて聞くものかもしれませんね。「ロックミシン」ってどういうものかイメージはありますか？



——家庭科の授業でミシンは使ったんですが……

ああ、それとはまた違うものなんです。結構特殊な専用ミシンなんです。布を切ると、端からほつれていってしまいますよね。その端の部分、「かがり縫い」というんですが、ほつれないようにかがっていくんです。ほつれを留める、「ロックする」ということで「ロックミシン」と呼ばれています。かがり縫い専用のミシンですね。

家庭用の「(小型)ロックミシン」は1960年代頃は世界のどこにもなくて、鈴木製作所が初めて開発しました。それを契機に市場が作られました。現在に至るまで研究や開発は続いていて、生まれた技術の特許でしっかり守っていく、という事業を続けています。現在では世界中のお客様に「最後は『ベビーロック』を使いたい」と思っていたいただけるような、ステータスとなっている製品を作っています。

「横型ピロー包装機」は、食べ物などをフィルムで包む機械です。コンビニで売られているような、包まれている食べ物がありますよね。袋の端、背の三方を熱でくっつけているのですが、その形が枕のように見えることから「ピロー包装機」と呼ばれています。

——馬場さん自身は現在どのようなお仕事をしていますか。



私は総務事務全般を担当しています。まずはエアコンをはじめとした社内設備の管理です。また、会社の特許関係の事務や雇用保険、社会保険の手続きもしています。それから、工場見学の案内もしております。

毎日決まって「ここでこれを作る」というような業務ではないので、計画をしっかり立てる、計画的に進めるという力をもっとつけなきゃいけないと思っているところです。

——入社して良かったことややりがいは何でしょうか。

入社して良かったことは、世界最先端のものづくりとはこういうものだ、ということを実際の目で見て触れることができることだと思います。開発から部品加工、組立までを一貫して社内で行っており、思いついたアイデアを豊富な技術・ノウハウですぐに形にすることができます。そうした開発のスピード感も含めて会社のいいところだと思います。

悩み事を親身に聞いてくれる、風通しが良いなど、会社の雰囲気はとてもいいと思います。

——製造業では勉強することがたくさんあると思いますが、どのように勉強していますか。

現場で見て触っていくのが割合的に7～9割ぐらい占めていますね。実際に現場で見て学んですごく自分の頭に入ってきます。足りない部分については自宅で勉強していることもあります。

(2) 職場編

——鈴木製作所に就職を決めたきっかけは何ですか。文系の方が製造業に就職するのはハードルが高いようにも思いますが……

(馬場さん) 最初に就職活動をしていた時は、鈴木製作所のことには全く知らなかったんですよ。ただモノづくりには興味が



あったので、大学の合同説明会でそうした分野の企業を見ていました。帰り際に鈴木製作所のブースの近くを通りかかった時に、とても元気な社員の方に呼び止められて、説明を聞きました。話を聞いていると、業界でも最先端の製品を作っていたり、世界中で愛されている製品を作ったりしている企業が身近にあったことを知ってとても驚きました。「地元で就職したい」とも考えていたので、これをきっかけに会社説明会に参加しました。

大学ではグローバル文化学コースに所属していて、主に歴史関係の授業を受けていました。そのため、「製造業の現場で文系の自分は何ができるのだろうか」という不安は結構ありましたね。

(総務部 横尾さん) 製造業というと、理系や工業系の人モノづくりをする、というイメージがあるかもしれませんが、実際にモノを作る為には、生産管理や各種の計画立案、材料の買付、それらの調整、経理など様々な工程があります。ですから、技術系の人だけではなく、文系の人でも活躍できる場が色々あるんです。



(馬場さん) 現場でも、今年山形大学人文社会科学部から入社した方が活躍しています。自分がどこの学部なのかをあまり深く気にする必要はなくて、自分が何をやりたいかをメインにするのが良いと思います。

——大学で学んだことは、現在の職場でどのように活かされていますか。



自分の専攻の知識が今の仕事に直接結びつく、ということはありませんが、Excelをはじめとしたパソコンの使い方は職場でも必要ですね。また、学生の内は、様々な本を読み、たくさん挑戦や体験をし、いろいろな知識をつけておくのがいいんじゃないかと思います。興味のあるなしに関わらず、幅広く見ておくことは仕事への引き出しを増やすことにも繋がるので。

(総務部 横尾さん) 技術系・文系での専門分野の知識も大変有効ですが、物事を大きく見て、考え、判断行動することを経験してきたことが大きいです。仕事に就いてからのの方が何十年と勉強期間が長いです。

(3) ある日の過ごし方編

●8:25 【朝礼】

出社後はエントランス等の清掃やスケジュールの確認をします。
その後ラジオ体操・朝礼を行い業務が始まります。

●9:00 【各種支払い・保険関係業務】

税金等各種支払いや各種保険の手続きのため、銀行や年金事務所等へ行きます。



●12:00 【昼休み】

持参した弁当を食べます。新型コロナ感染拡大防止の対策を取りながら、食堂で食事をしています。

●12:45 【知的財産関係業務】

自社製品の分野に関わる海外での特許出願調査や、自社特許の整理等を行います。

●15:00 【社内設備に関する業者打合せ】

社内設備の維持、導入等について各種設備業者と打合せをします。



●17:00 【業務終了】

業務を終了し、社員全員で10分間社内清掃をします。
一日の作業内容や明日の業務について整理した後、退勤します。
帰宅後は趣味に打ち込みます。

●17:10 【退勤】

(4) むらやまでの暮らし編

——村山地域での就職を決めた理由は何でしょうか。

やっぱり都会には山形にないような仕事もたくさんありますので、都会で就職することを考えたこともありましたが、今まで村山地域で暮らしてきた中で、小さいころから周囲の人々に良くしてもらい、ここまで育ててもらったので、働くとしたら自分の住んでいた地域に恩返しをしたいという思いが強くて、村山地域で働こうと決めました。



——村山地域で暮らしていて良かったことを教えてください。

自然が好きなので、好きな景色や自然を見てリラックスできる場所が良いと思いますね。家から出てすぐの田んぼの間の、農道の風景が好きですね。すごく開けた場所で、周りを田んぼに囲まれていてすごく気持ちの良い場所なんです。散歩すると良い気分転換になります。何気ない風景かもしれませんが、とても気に入っています。

私はあまり遠出をする方ではないのですが、庄内も滝をはじめとして雄大な景色があるようなので、今後はそういったところにも行ってみたいと考えています。あとは、周りによく知っている人たちがたくさんいるので、悩みを相談できるなど心強いです。こうしたことが、自分の育った地域で就職するメリットだと思います。

——仕事が終わって帰宅した後やお休みの日などは、どんな風に過ごしていますか。



退勤後は、趣味としてデジタルのイラスト制作をしています。最近はVRチャットもしているんですよ。地元においても様々な人たちの話が聞けます。外国の人とも話せるのが良いですね。

(5) まとめ編

——仕事をしていく中で、今後の目標はありますか。

「総務事務全般を担当している」とは言いましたが、まだまだ「全般」と言えるほどには知識や経験が不足している部分があると感じています。今後は一つでも多くの仕事を任せてもらえるように、一日一日しっかり計画を立てて頑張っていきたいです。



——これから就活する学生へ向けて、メッセージをお願いします。

まずは、興味のあるなしに関わらず、自分が知らないものや新しいものなど、いろいろなものに触れていくのがいいと思います。その中から自分が少しでも心が動いた分野、「これはいいな」という分野に進んでみるのがいいと思います。自分がその分野に元々興味があった場合もそうではない場合もあると思いますが、「自分は何が好きか？」ということは実際に見てみないと分からないところもあると思います。ですから、様々な分野に興味を持って、色々なものを見るのが良いのではないのでしょうか。

——最後に、総務部の海谷さんにもお伺いします。働きやすさを高めるために工夫していることについて教えてください。

社員の成長を実現する制度ということで、キャリアアップ応援制度があります。それから改善提案制度というものがあります。製造部門、事務部門に関わらず全部門で、改善できる点はないか、もっとやりやすい方法はないか、などを日々考えながら活動しています。そこで、各部署の中でグループ分けをして、「こういう改善をします」という表を作ってもらいます。それを社長及び役員が確認しています。良かった提案に対しては褒賞金も出ます。一年を通して様々な提案が出るのですが、その年の中で特に良かった提案については、社長から表彰が行われます。こうした形で、さらに働きやすい職場になり、かつ社員一人一人のモチベーションも上がるような工夫をしています。

それから、女性にとっても働きやすい職場になるように、産休や育休も取得できます。そして健康管理面では社員の健康診断も重要です。インフルエンザが流行する時期には、会社負担で希望者に予防接種を受けてもらっています。



他にも、「誕生会」として、毎月その月が誕生日の人たちにバースデイケーキをプレゼントしています。誕生会の日、全員でカツ丼を食べています。また、今はコロナ禍なので難しいのですが、花見や芋煮会、忘年会、新年会など、部署を越えて全員が集まって相互にコミュニケーションを取れる機会も設けています。

———ありがとうございました！

馬場さんの真面目で誠実な雰囲気がよく伝わるインタビューでした。今までは、製造業といえば理系の人だけが活躍できる業種だと思いましたが、今回のインタビューを通じて文系の出身も製造業という業種で活躍できることを知りました。今後、馬場さんがおっしゃったとおり、興味があるかないかに関わらず、色々なことを実際に見て自分に合う仕事を見つけたいと思います。

【インタビュアー：山形大学人文社会科学部 金 東均、芳賀 愛衣】

株式会社鈴木製作所

【業界の先頭を走る「山形のものづくり」！】

「人に喜ばれるものを創りたい」。これが鈴木製作所のものづくりの原点です。そんな純粋な思いから生まれた家庭用ロックミシン「ベビーロック」は、トップブランドとして世界中のお客様にご愛用いただいております。

☆地域未来牽引企業、グッドデザイン商品選定証 G マーク、山形エクセレントデザイン大賞、発明大賞など受賞

- ・所在地 山形市嶋南一丁目 12 番 7 号
- ・設立 昭和 28 年 6 月
- ・従業員数 134 名（男性 91 名、女性 43 名）
- ・URL <https://suzuki-ss.co.jp>

